

麻酔科初期臨床研修プログラム（必修科）

研修責任者 加藤 茂

研修期間 必修期間（4 週）、2 年次選択期間（4 週～）

I プログラムの名称

聖隷三方原病院麻酔科初期臨床研修プログラム

II プログラムの対象・研修期間

対象：卒後初期臨床研修、ローテート方式

研修期間：研修一年目 4 週（必修）、研修二年目（選択）

III プログラムの管理・運営・指導者

将来どの専門科に携わるにしても、基本的な全身管理を適切に行うことができるように、
全身麻酔・伝達麻酔を中心とした周術期管理を研修する。

日本麻酔科学会指導医・専門医の指導にて、麻酔専門医とともに研修を行う。

IV 一般目標（GIO ;General Instruction Objective）

麻酔管理を通して麻酔法、麻酔薬、麻酔補助薬などについての薬理と生理的变化を理解する。

呼吸、循環、体液管理の基本を学習・理解し、安全管理・危機対応能力を充実させる。

また、麻酔管理上重要であるチーム医療の実践を理解する。

V 行動目標（SBOs ;Structural Behavior Objectives）

- 1) 麻酔の術前評価を行い、プレゼンテーションすることができる。
- 2) 適切な麻酔計画を立てて、全身麻酔・伝達麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックなど）を行うことができる。
- 3) 各種検査データを理解することが出来る。
- 4) 周術期の輸液、輸血の管理ができる。
- 5) 麻酔管理上使用する生体監視装置の評価ができる。
- 6) チーム医療について理解・実践ができる。

VI 経験目標

- 1) 術前管理において次のことを適切に行うことができる。
 - ・術前診察
 - 問診（既往歴、手術歴、現病歴、合併症
 - 身体所見の把握・理解
 - 気道に関する所見
 - バイタルサイン
 - 全身状態の評価（ASAPS 分類：麻酔科学的全身評価）
 - ・臨床検査
 - 血液生化学検査、凝固機能検査、尿検査
 - 心電図検査、単純X線検査、呼吸機能検査 動脈血液ガス検査
 - ・麻酔指導医・専門医への症例提示・麻酔方法の検討
 - ・麻酔の説明と同意の習得
 - ・外科系医師との連絡
 - ・術前診察の記録、指示書の記載
- 2) 術中管理において、次のことを適切に行うことができる。

聖隷三方原病院 臨床研修プログラム

- ・適切な症例・術式・手術部位の確認
- ・麻酔器・患者監視装置の取り扱い
- ・末梢静脈路確保
- ・気道確保、エアウェイの使用
- ・バッグマスクによる人工呼吸
- ・気管挿管
- ・ラリンジアルマスク挿入
- ・人工呼吸器の設定
- ・麻酔に必要な薬剤の説明と使用
- ・基本的なモニタリングの評価・適切対応

血圧（非観血的・観血的）、心電図、パルスオキシメータ、カプノメータ、体温、血液ガス分析、筋弛緩モニタ、脳波モニタ（BIS、エントロピー）など

- ・全身状態の把握
- ・輸液、輸血（適応、血液製剤の選択、必要検査、副作用の理解）管理
- ・中心静脈路の確保（シミュレータ挿入含）と適切な確認
- ・動脈血の採血と動脈カテーテルの挿入
- ・尿道カテーテル留置
- ・胃管の挿入・確認
- ・気管内吸引・抜管
- ・手術室退出基準の確認
- ・麻薬などの適切な取り扱い

3) 術後管理において、次のことを適切に行うことができる。

- ・麻酔後の合併症の診断と処置
嘔気・嘔吐 気道閉塞、低酸素血症、低血圧、高血圧、不整脈、心筋虚血、神経障害、頭痛など
- ・疼痛管理

4) 次の局所麻酔法を行うことができる。

- ・硬膜外麻酔
- ・脊髄くも膜下麻酔
- ・浸潤麻酔
- ・神経ブロック

VII 方略：研修場所・研修スケジュール

- ・研修場所：中央手術室（14 室 14 手術台）
- ・研修スケジュール：以下表

	08:15-08:35	08:35-08:50	08:50-16:45	16:45-
日	緊急症例、臨床麻酔実施研修（希望研修医）			
月	症例カンファレンス	麻酔準備	臨床麻酔実施研修 術前診察 術後診察 術後検討	臨床麻酔実施研修（希望研修医）
火				
水				
木				
金				
土	緊急症例 臨床麻酔実施研修（希望研修医）			

VIII 評価

聖隷三方原病院臨床研修管理委員会作成の評価表に従い、研修医と指導医の面談にて評価項目を評価する。

VIII 関連学会

日本麻酔科学会（地方会を含む）、日本臨床麻酔学会などへの参加。

X 複数月ローテートした際にできること

- ・末梢静脈路確保から中心静脈の確保、上達すればPICC カテーテルの確保
- ・全身麻酔：吸入麻酔、静脈麻酔、NLA 麻酔など状況に合わせて選択していく麻酔
- ・通常の麻酔から手術手技に合わせての麻酔管理（呼吸器外科、心臓血管外科）
- ・多数ある神経ブロックの習得

以上、個人の上達度に合わせて実施が可能